

平成28年度 地域ケアプラザ事業報告書

1 施設名

釜利谷地域ケアプラザ

2 事業計画

地域の現状と課題について

平成28年3月現在、釜利谷地区の65歳以上の人口比率は28.9%で、区平均、市平均をともに上回っている。高齢化率は5年間で約5.1%上昇した。人口は、約31,620人で世帯数は増加する傾向がみられるが全般的に世帯規模は縮小の傾向は続いている。

金沢文庫駅西口の大型スーパーが建て替えとなり閉鎖してしまい、バスを利用して買い物をしてきた高齢者は、買い物が困難となり、外出の機会も減ってしまったとの声を聴いていたが、平成28年9月にオープンしこれまで同様に外出できている。また、大型スーパーの従業員向けに区、金沢ささえ隊と協力して認知症サポーター養成講座を開催し従業員の認知症の理解、早期発見に努めて頂けるよう努めた。

昨年度開催したロコモシンドローム予防、認知症予防のリーダー養成講座に参加した地域の担い手の方が、老人会、地域の自主活動の中で参加者に指導し移動機能の低下予防、認知症予防に取り組み健康意識が高く、町内会活動が盛んな地域もあり一人でも活動に参加する積極的な地域の方もいるが、男性高齢者の参加や担い手の少ない地域もあるため出張相談会等開催時に介護予防に関するミニ講座を実施し、元気な高齢者の方にも予防を意識頂けるよう取り組みを継続した。

28年4月より釜利谷地域ケアプラザ担当エリアの高齢者人口が6000人を超えたことから地域包括支援センターの職員が1名増員となった。また、生活支援体制整備事業がスタートし生活支援コーディネーターが配置され、生活支援・介護予防の充実のための基盤整備が役割とされ、地域ごとの特性や実情に応じてきめ細かい地域包括システムの構築に向けて積極的に地域に出向きニーズ・資源の把握に取り組んだ。

施設の適正な管理について

ア 施設の維持管理について

28年度は併設施設航と共に長期修繕計画を作成した。

日常的な維持管理は職員が行い、専門的な保守管理は専門業者に委託して、計画的、定期的に行った。

施設・設備の維持保全については、故障不具合の状況を区・建築局に報告を早めに相談し大規模修繕にならないよう実施した。

専門業者による建物設備管理、建物清掃、環境衛生管理は計画的に実施した。

併設施設航と共同の衛生委員会により定期的に施設敷地内の清掃を実施し施設の美化に対する意識を高め、職員全員で美化に努めた。

イ 効率的な運営への取組について

法人で運営する区内のもう1カ所の地域ケアプラザと連携しサービスの質の向上を図った。

職員一人一人がコストを意識し経費削減に努め、節電、節水等に職員全員で取組み光熱費の削減に取り組んだ。ケアプラザ会議にて電気使用量の前年比較表を職員で確認し、意識を高め、電気使用料金については、27年度比では大幅に削減ができた。複合施設の利点を活かし事務の一括処理、印刷機、電話回線、厨房機材等を共同使用することで効率的な運営を行った。

ウ 苦情受付体制について

施設内に案内を掲示し、ご意見箱を設置し、地域の方、利用者、ご家族が気軽に要望や不満、意見を言いやすい環境づくりに取り組んだ。

運営法人の苦情解決に関する規則、実施要綱に則り、苦情受付担当者、苦情解決責任者、第三者委員を設置している。

苦情を受け付けた際は、迅速に対応し現場職員、苦情受付担当者、苦情解決責任者と一体となって誠実な対応をし、今後の解決策、改善策を提示する。苦情の発生から解決までを記録に残し職員全員で共有した。28年度は1件あり関係部署にて会議を開催し検証し、今後の対応を話し合った。

年1回、事業毎に利用者アンケートを行い、意見や要望を伺います。内容については部門毎の会議で検討し、解決に向けて対応した。

エ 緊急時（防犯・防災・その他）の体制及び対応について

ケアプラザ全職員、利用者対象に避難訓練、初期消火訓練を併設施設と合同で行った。また、地域の防災訓練にも参加し、連携して防災に努めた。

連絡体制、役割分担、関係機関の一覧表を掲示しすぐに行動できるようにしている。

災害・緊急時の職員の確保については、職員全員の参集最短時間把握を行った。

特別避難場所として速やかに開設できるよう特別避難場所開設・運営マニュアルに基づく訓練はできず、マニュアルを確認した。災害時備蓄品の整備管理を適切に行い、担当者だけでなく、職員全員で確認した。不審者への対応は、全職員で当たり、窓口では受付担当がチェックし、緊急時は、警備会社へ通報が行く体制を取っている。夜間は機械警備としている。

貸館利用者には、定期的に避難経路説明を実施しいざというときに備えていただいた。

オ 事故防止への取組について

AEDを館内に設置し緊急時に対応し、地域の方にも周知した。

会議にてヒヤリハット事例を検討し、事故防止に努めた。定期的な会議だけではなく日々の業務の中での職員一人ひとりの気づきも重要と考え日常の業務の中で小さなこともヒヤリとしたことは見過ごさず報告し、ヒヤリハット報告の共有と職員のリスクマネジメントに対する意識を高めた。

施設内の設備についても、危険な箇所、予測される危険箇所は、改修、修繕をし、使用し易いように整理整頓を職員全員で取り組んだ。

カ 個人情報保護の体制及び取組について

法人の個人情報保護方針に基づき、職員全員が遵守し利用者、関係者の個人情報の保護に万全をつくした。職員の入職時は、所長から条例、マニュアルにて研修実施した個人情報保護に関する通知文や事故報告は職員に配布、回覧し周知した。

使用の目的と範囲を明確にした上で、個人情報の持ち出しについては管理職の許可を得て行い、個人情報は、施錠にて保管した。

個人情報保護統括責任者（事務局長）、個人情報保護責任者（所長）、個人情報管理者を置き、統括責任者の指示のもと個人情報の適正管理にあたった。

日々の取扱いは、マニュアルを作成し、確認表に必ず2名で確認押印し、誤送付などの事故を防止する。訪問等の個人情報持ち出しは、ファイルに持ち出す内容を記載し管理した。

キ 情報公開への取組について

事業報告、事業計画は、地域の皆様にも閲覧できるように窓口にファイルで設置しており、ホームページにも掲載している。

介護サービス情報公表制度に基く「基本情報」「調査情報」の公表をした。ホームページは、28年度新しく作り直しをし、地域の方々が見やすく、事業情報等は常に最新情報を掲載し今まで以上に地域の方に見て頂けるようになった。

ケアプラザの広報誌「やまなみ」を3か月に1回、チラシを年7回発行し、町内会、郵便局、スーパー等に掲示、配布し事業のお知らせだけでなく、近隣施設の事業案内も掲載した。

ク 人権啓発への取組について

1回/年、法人の全職員必須の研修として、人権研修を開催し全員参加できるように2日間開催した。常に高い人権意識を備え深める研修として、大学の教授を講師に迎え「権利侵害ゼロに向けて取り組むべきこと」と題して実施した。研修後にはアンケートを実施し、職員がどのように人権を捉え業務に活かそうとしているかを確認し、研修内容の充実や研修効果を高めるように努めた。

ケ 環境等への配慮及び取組について

横浜市ゴミゼロルート回収参加施設として、ごみゼロ推進運動に取り組み、再利用、分別管理の徹底を図った。

空調の温度設定をし、不要な照明は消灯の徹底をした。

法人全体で電力使用量比較表を年度ごとに作成し、職員で確認し、節電に取り組んだ。プリンターのインクカートリッジは、インクカートリッジ里帰りプロジェクトに参加し再資源化に協力した。

施設の草取り等のできるところは、職員の衛生委員会で実施し、環境美化と景観に努めた。植栽については、定期的に業者に依頼した。

介護保険事業

● 介護予防支援事業

《職員体制》

- ・ 管理者 1名（常勤：地域包括支援センター看護師と兼務）
- ・ 看護師 1名（常勤）
- ・ 主任ケアマネジャー 1名（常勤）
- ・ 社会福祉士 2名（常勤）
- ・ ケアマネジャー 2名（非常勤）

《目標に対する取り組み状況》

- ・ 要支援認定された方の自立した日常生活を営むために必要なサービスが適切に利用できるよう、家族や地域資源を活かしたプランを作成し地域で自立した生活が継続できるよう支援した。
- ・ 自立認定、認定結果の現状維持や軽度化を目指し自立した生活が行えるよう取り組んだ。
- ・ 介護予防プラン作成するにあたり、各事業所との連携を図りインフォーマルサービス等を入れたプランを作成した。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

- 利用者様のご負担はありません。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- ・ 委託ケースについては、担当者会議に出席し連携をはかった。
- ・ ご利用者様には、担当ケアマネジャーに苦情等ある場合は直接、包括支援センターに連絡頂けるよう説明した。
- ・ 担当者不在でも緊急時スムーズに対応できるよう包括職員間で定期的にカンファレンスを行い情報共有した。

《利用者実績》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
162	167	158	159	155	162
10月	11月	12月	1月	2月	3月
165	162	165	172	181	188

● 居宅介護支援事業

《職員体制》

平成 28 年度は以下の体制で実施した。

- ・ 常勤 週 40 時間 3 名（うち 1 名は管理者兼務）
- ・ 常勤兼務 週 10 時間 1 名（ケアプラザ所長兼務）
- ・ 非常勤専従 週 28 時間 1 名

《目標にむけた取り組み》

- ・ 住み慣れた地域でできる限り長くその人らしい生活ができるように、フォーマル・インフォーマルサービスを提案し支援した。
- ・ 自立に向けた明確な目標設定、達成度がわかりやすい個別性の高いプラン作成を行い、重度化の予防に努めた。
- ・ 情報共有や事例検討のために週一回以上会議や勉強会を行い、また多くの外部研修にも参加することで情報共有や知識を深めることができ、ケアマネジャーの資質向上に努めた。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

- 利用者様のご負担はありません。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- ・ 処遇困難ケースも積極的に担当し、地域包括支援センターや区役所、医師等と協働してサービスの提供を行い円滑な在宅生活を支援した。
- ・ 特定事業所加算Ⅲを算定し、週一回以上の会議や内部の研修、事例検討会などを随時行った。その中で新規ケースや困難ケースについての情報共有や支援の方向性を相談することで、事業所全体で利用者を把握することができた。これによって担当ケアマネジャー不在の際にも迅速な対応ができ、またケアマネジャーの経験やスキルに左右されない片寄りのないサービス提供が行えた。
- ・ 専用の携帯電話を持つことで 24 時間相談できる体制を確保した。
- ・ 外部研修への積極的な参加により、医療や福祉、制度等に対する幅広い知識と多職種とのネットワークづくりを行い、質の高いサービス提供やケアマネジャーの資質向上に努めた。
- ・ 金沢区のケアマネジャー連絡会の中心となって活動することで、行政やあらゆる職種との連携を図り、金沢区全体のケアマネジャーの活性化に寄与した。

《利用者実績》

※要介護の人数（）内は予防件数

【単位：人】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
124 (28)	127 (27)	125 (24)	127 (24)	128 (24)	126 (22)
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
126 (20)	126 (18)	119 (18)	113 (16)	109 (17)	109 (17)

● 通所介護事業

《提供するサービス内容》

- 1) 基本サービス
 - ①送迎サービス
 - ②健康状況の確認
 - ③介護サービス（排泄介助・食事介助等）
 - ④レクリエーション・体操
 - ⑤生活相談
 - ⑥介護相談又は介護方法の指導等
- 2) 加算サービス
 - ①入浴介助加算
 - ②個別機能訓練加算（Ⅱ）
 - ③サービス提供体制強化加算（Ⅰ）イ
 - ④介護職員処遇改善加算（Ⅰ）
- 3) その他（個別提供）
 - ①趣味活動
カラオケ、散歩、囲碁、将棋、大正琴、ピアノ、習字、塗り絵、貼り絵、クラフト制作 等
 - ②曜日毎の教室やクラブ活動
体操教室、音楽教室、押絵教室、絵手紙教室
カラオケサークル、麻雀サークル、手作りおやつサークル 等
 - ③行事
花見、運動会、敬老会、秋祭り、クリスマス会、利用者忘年会
 - ④イベント食
お楽しみランチ（2回/月）、流しそうめん、昼食バイキング、
ケーキバイキング、駅弁、母の日・父の日お祝い膳、お鍋、握りずしパー
ティー、年越しそば 等

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

- 自己負担割合 1割の場合
 - （要介護1）・・・・・・・・・・ 692円
 - （要介護2）・・・・・・・・・・ 817円
 - （要介護3）・・・・・・・・・・ 947円
 - （要介護4）・・・・・・・・・・ 1,077円
 - （要介護5）・・・・・・・・・・ 1,206円
- 食費負担・・・・・・・・・・ 700円
- 加算
 - 1) 入浴介助加算・・・・・・・・・・ 54円
 - 2) 個別機能訓練加算（Ⅱ）・・・・・・・・・・ 60円
 - 3) サービス提供体制強化加算（Ⅰ）イ・・・・・・・・・・ 20円
 - 4) 介護職員処遇改善加算あり
 - 5) 送迎をしなかった場合（片道）・・・・・・ 50円
- 自己負担割合 2割の場合
 - （要介護1）・・・・・・・・・・ 1,383円
 - （要介護2）・・・・・・・・・・ 1,634円
 - （要介護3）・・・・・・・・・・ 1,893円
 - （要介護4）・・・・・・・・・・ 2,153円
 - （要介護5）・・・・・・・・・・ 2,412円
- 食費負担・・・・・・・・・・ 700円
- 加算
 - 1) 入浴介助加算・・・・・・・・・・ 108円

- 2) 個別機能訓練加算 (Ⅱ)・・・120円
- 3) サービス提供体制強化加算 (Ⅰ)イ・・・39円
- 4) 介護職員処遇改善加算あり
- 5) 送迎をしなかった場合 (片道)・・・101円
- 介護用品使用時に実費
 - 1) リハビリパンツ 1枚・・・150円
 - 2) 紙オムツ 1枚・・・200円
 - 3) 尿とりパット 1枚・・・30円

《事業実施日数》 週 7日

《提供時間》 9:20 ~ 16:30

《職員体制》

管理者	1人 (常勤)
生活相談員	4人 (常勤、介護職員兼務)
看護職員	6人 (常勤1人、非常勤5人)
機能訓練指導員	6人 (常勤1人、非常勤5人)
介護職員	21人 (常勤4人、非常勤17人)
運転手	8人 (非常勤)

《目標に対する取り組み状況》

- 1) 安心・安全を第一に、サービスの向上に努めたが、骨折に至る事故があった。職員全体に事故の内容を周知し、職員体制は適切であったか、どうしたら起らなかったかを議論した。人員体制は適切ではあったが、視野狭窄のある利用者に対し事前に段差がある事の声掛けができていなかったため段差に気づかず段差に躓き事故に至った。事前に声掛けし危険予測ができる声掛けができていれば事故は起る事は無かった。
- 2) ご利用者様が『笑顔』になれるサービスを提供した。利用者を笑顔にするためにはまず職員も笑顔にならなければいけないこと、忙しい時でも利用者に忙しいことを察知されないように職員へ周知し利用者支援に努めた。また、様々な活動や食事などを提供し、サービスの質の向上にも努めた。
- 3) 関係機関と連絡、連携を密接に取り、質の高いサービスを提供した。介護保険更新時、サービス内容変更時の担当者会議へ出席し、月末には各居宅支援事業所の担当ケアマネジャーへ利用者状況を報告するほか、変化等があれば、電話などでもその都度状況報告した。

《その他 (特徴的な取組、PR等)》

- 1) 地域の施設、小学校や保育園とレクリエーションなどを通し交流会を行った。
- 2) 施設的环境を活かし、山を見ながら屋上までの館内散歩を天候の良い日は毎日実施した。また、裏山の竹を利用し、流しそうめん、ベランダのプランターでの園芸活動を行い、季節を感じていただくことができた。
- 3) 季節ごとの食事、「鍋パーティー」「バイキング食」「寿司パーティー」「会席風料理」「年越し蕎麦 (蕎麦打ち体験)」など様々なイベント食を提供した。
- 4) 季節毎の行事 (花見、運動会、敬老会、秋祭り、クリスマス会、忘年会) を実施した。
- 5) 毎月、入浴週間を設け、浴室を飾ることで季節を感じていただくことができた。
- 6) ご利用者のニーズに応えられるように各曜日にサークル活動・教室を実施した。

《利用者実績（延べ人数）》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
873	907	878	927	948	933
10月	11月	12月	1月	2月	3月
946	892	836	790	779	845

● 介護予防通所介護事業

《提供するサービス内容》

- 1) 基本サービス
 - ①送迎サービス
 - ②健康状況の確認
 - ③介護サービス（排泄介助・食事介助等）
 - ④レクリエーション・体操
 - ⑤生活相談
 - ⑥介護相談又は介護方法の指導等
- 2) 加算サービス
 - ①運動器機能訓練向上加算
 - ②サービス提供体制強化加算（Ⅱ）
 - ③介護職員処遇改善加算（Ⅰ）
- 3) その他（個別提供）
 - ①趣味活動
カラオケ、散歩、囲碁、将棋、大正琴、ピアノ、習字、塗り絵、貼り絵、クラフト制作 等
 - ②曜日毎の教室やクラブ活動
体操教室、音楽教室、押絵教室、絵手紙教室
カラオケサークル、麻雀サークル、手作りおやつサークル
利用者自立支援活動 等
 - ③行事
花見、運動会、敬老会、秋祭り、クリスマス会、忘年会
 - ④イベント食
お楽しみランチ（2回/月）、流しそうめん、昼食バイキング
ケーキバイキング、駅弁、母の日・父の日お祝い膳、お鍋、握りずしパーティー、年越しそば 等

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

- 自己負担割合 1割の場合
 - （要支援1）・・・・・・・・・・ 1, 776円
 - （要支援2）・・・・・・・・・・ 3, 621円
- 食費負担 ・・・・・・・・・・ 700円
- 加算
 - 1) サービス提供体制強化加算（Ⅰ）イ
 - （要支援1）・・・・・・・・・・ 78円
 - （要支援2）・・・・・・・・・・ 155円
 - 2) 運動器機能向上加算 ・・・・・・・・ 242円
 - 3) 介護職員処遇改善加算あり
- 自己負担割合 2割の場合
 - （要支援1）・・・・・・・・・・ 3, 531円
 - （要支援2）・・・・・・・・・・ 7, 241円
- 食費負担 ・・・・・・・・・・ 700円
- 加算
 - 1) サービス提供体制強化加算（Ⅰ）イ
 - （要支援1）・・・・・・・・・・ 155円
 - （要支援2）・・・・・・・・・・ 309円
 - 2) 運動器機能向上加算 ・・・・・・・・ 242円
 - 3) 介護職員処遇改善加算あり
- 介護用品使用時に実費
 - 1) リハビリパンツ 1枚・・・・ 150円

- 2) 紙オムツ 1枚・・・200円
- 3) 尿とりパット 1枚・・・30円

《事業実施日数》 週 7日

《提供時間》 9:20 ~ 16:30

《職員体制》

管理者	1人(常勤)
生活相談員	4人(常勤、介護職員兼務)
看護職員	6人(常勤1人、非常勤5人)
機能訓練指導員	6人(常勤1人、非常勤5人)
介護職員	21人(常勤4人、非常勤17人)
運転手	9人(非常勤)

《目標に対する取り組み状況》

- 1) 利用者の特性を踏まえ、自立した日常生活の維持・向上を目標としサービスを提供した。
- 2) 安心・安全を第一に、サービスの向上に努めた。
- 3) ご利用者様が『笑顔』になれるサービスを提供した。
利用者を笑顔にするためにはまず職員も笑顔にならなければいけないこと、忙しい時でも利用者に忙しいことを察知されないように仕事をしていくことを職員へ周知し、気を付けて仕事にあたっていた。また、様々な活動や食事などを提供し、サービスの質の向上にも努めた。
- 4) 関係機関と連絡、連携を密接に取り、質の高いサービスを提供した。
介護保険更新時、サービス内容変更時の担当者会議へ出席し、月末には各居宅支援事業所の担当ケアマネジャーへ利用者状況を報告するほか、変化等があれば、電話などでもその都度状況報告させていただいた。

《その他(特徴的な取組、PR等)》

- 1) 地域の施設、小学校や保育園とレクリエーションなどを通し交流会を行った。
- 2) 施設的环境を活かし、山を見ながら屋上までの館内散歩を天候の良い日は毎日実施した。また、裏山の竹を利用し、流しそうめん、ベランダのプランターでの園芸活動を行い、季節を感じていただくことができた。
- 3) 季節ごとの食事、「鍋パーティー」「バイキング食」「寿司パーティー」「会席風料理」「年越し蕎麦(蕎麦打ち体験)」など様々なイベント食を提供した。
- 4) 季節毎の行事(花見、運動会、敬老会、秋祭り、クリスマス会、忘年会)を実施した。
- 5) 毎月、入浴週間を設け、浴室を飾ることで季節を感じていただくことができた。
- 6) ご利用者のニーズに応えられるように各曜日にサークル活動・教室・自立支援活動(洗濯・茶碗洗いなどの炊事・テーブル拭き等)を実施した。

《利用者実績（契約者数）》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
17	16	15	13	14	14
10月	11月	12月	1月	2月	3月
15	14	15	13	13	16

地域ケアプラザ

1 総合相談（高齢者・こども・障害分野への対応）

高齢者、こども、障害者など全ての地域住民の相談に対応できるよう地域活動交流と地域包括支援センターで協力し、相談者に対し情報提供を行っている。それぞれで受けた相談に関しては、随時情報共有と場合によってはケース検討を行い、多職種で支える質の高い相談業務を行った。また、情報提供の中で紹介した先でスムーズに手続きが済むよう、必要に応じて他機関へ情報提供を行っている。相談内容によって地域の特徴を伝えながら分かりやすい説明を心掛けている。

自主事業や出張講座では、四職種で出向き、講座内容以外の質問でも的確に対応できるよう努めた。同時に地域の方が何に困っているのか情報収集するため積極的に参加者に話し掛けることを心掛けた。必要に応じて区や関係機関と地域課題について話し合いを行っている。

2 地域活動交流部門・地域包括支援センターの連携

地域の現況や、地域における個別ニーズ、地域課題を共有し、それぞれの立場での取組やネットワークを活かしながら、有機的な連携をもって課題解決に取り組んだ。各部門が対応しているケースについても、定期的に検討の場を設け情報共有したり、早急に対応が必要なケースについては、随時検討の場を設けるとともに、区役所との定例会においてもケース検討を実施した。

地域活動交流部門と地域包括支援センター相互の専門性や特色を活かした「あんしんして暮らせる10分間講座」を継続して開催した。地域活動交流が主催する事業に、不定期・不特定で地域包括支援センターの社会福祉士が、教室開始後10分間の時間を利用して、制度や消費者被害、詐欺、空き巣、交通安全等、ケアプラザが把握している最新の情報を事業参加者に提供するものである。

高齢者対象の事業、医療等関連事業、日中独居者支援の会食サロン、地域に向いて実施する事業等を共催で開催し、お互いの立場から意見を出し合いより充実した事業展開ができるよう工夫した。28年度は、地域のインフォーマルサービスや関係機関等の地域資源の情報収集・整理を行い、地域の多様な活動をまとめた「釜利谷みんなの情報シート」を生活コーディネーターと地域包括支援センターと協力して作成し、民生委員やエリア内のケアマネジャーに配布した。また、5職種で協力し「マップ研修」「みまーもの講演会」を開催した。西金沢地域ケアプラザ、釜利谷地域ケアプラザの4コーディネーターで移動サロンを立ち上げた。各部門独自の事業についても密に把握し合い、地域の方の必要な情報や活動の場をより多く提供できるよう心掛けるとともに、情報の共有も含めて、一人の方を部署間で支えるよう努めた。更に、より多くの地域住民が福祉保健の情報が得られるよう、広報紙等を通じて各部門の立場から様々な事について情報発信した。

3 職員体制・育成

法人で取り組んでいる自己育成シートにて個人の事業に対する年間目標を設定し上席者と目標を共有し中間期に振り返りを行い、目標の進捗状況の確認、今後に向けての課題等を面談にて共有した。また、今年度も階層別研修を職員全員が受講し専門性、組織性を定期的に学び人材育成に取り組んだ。

28年度より地域ケアプラザの体制強化により地域包括支援センター常勤専従の職員1名加配となり配置に努め11月より適正な執行体制となり地域へよりきめ細かく支援していく。

各部署別、ケアプラザ全体の年間研修計画に基づき内部研修、外部研修に常勤、非常勤を参加させ専門性の向上を図った。研修は業務扱いとし参加しやすい体制を取っている。研修参加後は、報告書を作成し内部会議にて報告、回覧し全職員で共有した。

ケアプラザ研修委員会主催の研修は、ケアプラザ全体で取り組むべき課題についての研修を企画した。今年度は、ケアプラザ全職員対象（ドライバー、介護補助非常勤等）の認知症サポーター養成講座を企画実施する。地域の一員としての研修とし地域を考えた。

利用者、活動団体、事業者等に対して複数の選択肢があることを伝えるなど公設の施設として公正中立な立場で業務にあたった。

4 地域福祉のネットワーク構築

地域の社会資源を生活支援コーディネーターとまとめ「釜利谷みんなの情報シート」を作成、配布し、様々な相談に対応できるように情報共有を行った。地域包括支援センターの機能や目的を知ってもらうことや顔の見える関係を築くために医療機関、居宅事業所等の関係機関へ定期的に訪問し、地域福祉従事者とのネットワーク構築のため、出張講座や介護予防教室、地域のサロン等に出向き随時情報提供を行った。

5 区行政との協働

区の運営方針や課題、取組目標として掲げている事柄をよく理解し、それに基づき行動するとともに、地域に根ざした福祉保健施設として得られた地域課題や地域情報を、区と共有しながら協働で地域支援・地域づくりに取り組んだ。地域福祉保健計画においては、地域支援チームとしての役割と地域における福祉保健施設としての役割それぞれを担い、区と協働しながら第3期計画の推進に努めた。

また、区役所で受けた研修を地域へ伝える取組も始め、今年度は「地図の講座」を開催し、地域住民の地域力の更なる向上の橋渡しを担った。

また、地域包括支援センター、地域活動交流部門と部門ごとにおいても、区との共催事業や定例会議、個別ケースの共有・支援等を通じて地域福祉保健計画の実現を目指した。

地域活動交流部門

1 福祉保健活動等に関する情報収集及び情報提供

関係機関との会合や共催事業を通じて、相互での情報収集及び情報提供を行なうとともに、地域により近い福祉・保健の施設であるという特性を活かした情報収集を行い、必要な人に必要な情報がタイムリーに届くよう努めた。

具体的には、地域支えあい連絡会、釜利谷子育て連絡会、地区推進会議、コーディネーター連絡会等、更に多様な団体との共催事業（地区社協、民生委員・児童委員、保健活動推進員、食生活改善推進員、地域支援グループ等）を通じての情報収集および提供を行った。また、地域包括支援センター、生活支援コーディネーターとの共催事業を通じて、それぞれの視点で社会資源の把握を行うとともに、地域の現状把握にも努めた。

こども支援を中心とした“ぼるーんの会”（主任児童委員、区こども家庭支援担当者、西金沢地域ケアプラザ）及び、こども・障がい児支援を中心とした“釜利谷コミュニティーネットなないろの会（フレンドリースペース金沢、主任児童委員、障害児を持つ保護者の会代表、区子ども家庭支援担当者、西金沢地域ケアプラザ）の定期的な開催により、よりコアな情報収集と情報提供を行うことができた。

地域支援者には、地域支えあい連絡会や講演会を通じて、区、区社協、ケアプラザからの福祉保健に関する情報提供や、区や区社協主催の職員向けの研修受講後、地域支援者向けに内容を再構成し開催するなどし、地域づくりに関する情報提供も行った。

地域住民に対しては、行政からの告示や、区社協、地区社協から得た内容をわかりやすく情報提供をするよう努めた。具体的には、昨年度から初めた地域包括支援センターとの共催による「あんしんして暮らすための10分間講座」に加え地域の行事に出向いての「ちよっとおじゃまします」を開催し、直接住民に語りかける形で情報提供をする場を増やした。また、広報紙「やまなみ」には地域包括支援センターからの情報提供に加え、“k a

n a k e i (かなけい)”の欄を設け、金沢警察署からの注意喚起のお知らせを定期的に掲載するようにした。

広報紙・チラシの発行（年 11 回）・掲示、ケアプラザホームページ（毎月更新）や区の広報紙及び横浜市のイベント情報検索システム「横浜カレンダー」等を活用し、より多くの方に情報が届くよう努めた。更に、事業開催時には参加者に合わせたチラシを置くとともに、個別に必要な情報を見極め情報提供するなどの対応にも努めた。

夜間や週末開催の事業参加者を増やすことに努め、新たな層のケアプラザ利用者を増やし、情報収集・提供者の幅を広げた。

横浜市が提供している人口統計等の資料を基に、地域に合わせて資料を独自に作成し、データから地域を読み取ることの周知を行った。

地域情報、貸館登録団体等の活動を必要に応じての情報提供に加え、活動参加への橋渡しも行った。また、地域に近い福祉保健の施設という特性を生かし、福祉保健活動団体等との共催事業や地域住民との会話の場を多く持つことにより、よりタイムリーな生きた地域情報を得ることに努めた。

2 福祉保健活動団体等が活動する場の提供

福祉保健活動団体が安定した活動を行えるような場の確保や調整を行うとともに、支援が必要な団体に対しては、支援を受けながら安心して活動できる場の提供を心掛けた。また、利用の少ない夜間と週末に開催をしている事業の参加者を増やし新たなケアプラザ利用につなげ、施設利用率向上につながるよう努めた。また空き情報や利用方法などは、個人の状況に応じて個々に対応することに努めた。

対象が障がい者限定ではない事業全般に、障がい者が参加しやすい環境を整え相互の理解を深め、ケアプラザが“福祉保健”の活動する場であることを意識的に根付くように努めた。更に、福祉保健活動団体がケアプラザという場を利用して活動しているということの意味を捉え、積極的に団体との関係を深め、活動の支援を行うとともに、団体と地域資源（講師）や支援の必要な方と福祉保健活動団体が出会えるようなコーディネートも行った。

安全面においては、貸館利用団体参加者全員を対象に、定期的に団体ごとに館内を歩き、災害時の避難経路について説明を行った。また、これまでと引き続き高齢者、幼児、障がい者が安心して館内を利用できるよう、靴を履き替えることなく館内に立ち入れる工夫や、館内の掲示物に画鋏を使用せずテープで対応する等の安全対策をとるとともに、障がい者や子どもの利用がある場合は、職員の誰もが来館者に配慮できるよう毎朝の朝礼で来館予定者についての周知を行った。また、釜利谷地域ケアプラザの特徴でもある“大きな水槽”を利用し、子育て支援・障がい児支援団体に対し、困ったときのひとつのツールとして利用いただくよう声掛けを行った。

机、椅子、調理器具等の物品管理については、写真や絵・図を掲示することで、スムーズな利用と次に使う団体への配慮にもつなげた。

3 自主企画事業

これまでに引き続き、長期的な視野で将来を見据えた事業展開を図るとともに、対象を越えた人と人との繋がりをつくり出すことを意識した自主事業の展開を目指した。

「ちょっとおじゃまします」

地域包括支援センターの社会福祉士を中心とした職員が、地域で開催されているサロンにおじゃまし、5分間程度の時間を利用して、様々な制度や消費者被害、詐欺、空き巣、交通安全等、最新の情報を参加者に提供するという、昨年度から開催をしている「あんしんして暮らせる10分間講座」の地域出張版。参加者が自宅に帰ってからも、家族や知人にその情報を伝えていただくようお願いし周知の範囲を広げるとともに、事業参加者が他者に伝えることで、得た知識がより記憶に残るよう工夫したものである。これは、地域の方の何気ない会話から、“利用できる制度を知らない”、“未だ絵に書いたような詐欺に合っている”ということを目にしたことがきっかけで事業化したものである。地域やケアプラザで様々な講座や講演会が開催されているが、情報提供・注意喚起したい方と参加者は

必ずしも一致していない。また、今は必要ない情報でも、耳にしておくことで将来役に立つこともある。より多くの地域住民に情報を伝えていく必要性を感じ事業化した。

「地図の講座」

区主催の研修「地域力向上研修～地図の使い方～」を受けて、主任ケアマネジャー（地域包括支援センター）、生活支援コーディネーター、地域活動交流コーディネーターが中心となって地域支援者向けに構成し直し開催。手法や地域を知るといふ目標とともに、地域とはいえとかく縦割りになりやすい組織の仕組みの中で、さまざまな支援者が役割や立場を越えて地域を考える、“顔の見える関係づくり”も目指して開催した講座である。

「ゴスペル教室」「ヨガ教室」「英語を楽しもう！～2020年は東京オリンピック～」

直接福祉保健に関わりが薄い層の参加が多い夜間・週末開催のヨガ教室、ゴスペル教室、英語教室は、他団体への活動参加や合同での活動につながっており、参加者のさらなる居場所作りにもつながっている。また、知的障がい者や精神障がい者の参加が多く、ごく自然に地域の方に受け入れられる体制が整っている。また今年度はこれらの参加者から障がい者支援ボランティアに多くの方をつなげることができた。

利用の少ない夜間と週末に開催することで、場所の有効活用とともに社会人やリタイアされた方の地域資源の発掘の場としても機能した。

「地域支えあい連絡会」

昨年度に引き続き、専門職と地域住民それぞれの立場から現況を聞き合うことで、情報交換の場の提供と顔の見える関係づくりという目的に加え、ゲストという形で区役所の様々な部門（高齢、収納、危機管理、地域力推進）に参加をいただいた。これは単に地域住民への情報提供ということではなく、区役所の方にも地域の方のいきいき活動されている姿を直に見ていただきたいという思いもある。

「高齢者」

高齢者が将来孤立しないために、少しでも早い時期から地域と関わり顔の見える関係を築くことを目的とした、中高年を対象とした手芸サロン“はりねずみのお針箱”では、手芸を教え合う形が確立しやりがいにつながっている。“見学”という形での参加者も増え、居場所としても機能してきている。体操教室や歌の教室においても、参加者同士の状況確認や情報伝達が自然になされている。また、地域包括支援センターの協力の下、どんなことでも気軽に相談できる場としても機能している。

「障がい児者」

障がい児によるボランティア活動「放課後活動かまじやクラブ」は、地域ボランティアの支援を得て、安定した活動となっている。また、「Active English」では、障がいの程度や年齢に制限を付けず、また、当事者の付き添いということだけでなく、一参加者としての家族の参加もあり“皆で楽しむ”をモットーに講師、ボランティアの協力のもと開催している。また、障がい者対象事業以外のどの事業にも、障がいのある方は対象に関係なく気軽に参加できるよう一般参加者の協力と支援により、参加しやすい環境となっている。

「子育て」

年齢別、多年代（0～6歳）、多世代と、事業内容も含めて様々なパターンの事業を提供している。また、ボーダーの子どもの支援を目的とした事業も引き続き展開している。気になる親子の参加があった場合は、主任児童委員や区役所に連絡を入れている。また、今年度は、子育て中の母親をその子とともにボランティアとして招き活躍していただいた。

「外国人」

一部の事業の周知に英語を取り入れ、メールでの英語の受付も可能にし、日本語を第一言語としない方も参加しやすいよう努めた。

「多世代」

「プラレール広場」において、幼児、母親、シニアボランティアが皆で準備し・遊び・片付けを行う、参加型事業を開催している。また精神面に障がいのある方をボランティアとして迎え入れている。

「会食サロン」

地域包括支援センターとの共催事業会食サロン「森の小道やまなみ」は、貸館利用者、地域ボランティア、地域支援者とともに安定した開催を続けている。また、中学生の職業体験の受け入れの場にもなっている。今年度は個別支援級の職業体験の場としても機能させ、ボランティアの方に指導をお願いした。

「講座・講演会・出張講座」

地域包括支援センターとの共催で、医療講演会、暮らしの教室、認知症サポーター養成

講座等を開催し、福祉・保健の啓発に努めた。

「共催事業」

区社協、地区社協、区内ケアプラザ、保健活動推進員、金沢区食生活等改善推進員会等と共催事業を開催し協働での地域支援と各組織との関係を深めた。

「当事者との関わり」

障がい児を持つ母親の自主グループと子育て支援者の勉強会の自主グループの後援をし、ともに活動に加わることで決して表には出ない・出せないようなインフォーマルな情報を得、ケアプラザ事業の中で反映させるよう努めた。

4 ボランティアの育成及びコーディネート

今年度は地域の多くのボランティア未経験の方を障がい児支援ボランティアにつなぐことができた。単にケアプラザで障がい児者支援のボランティアを行ったということにとどまらず、地域での見守り者の一人としてまで発展させ、ボランティア活動を“ボランティア”と意識せず、行動が結果的に社会貢献につながり、延いては生活の場においても支援につながるようなコーディネートができた。

乳幼児親子向けのボランティアも安定した活動を継続している。また、子育て中の母親のボランティアとしての活躍の場の提供も行った。

中学生の職業体験、福祉体験にも地域のボランティアの方に指導に加わっていただき、“地域で地域の子を育てる”を意識したボランティアコーディネートができた。

高齢のボランティア方には、楽しみながら、また、活動の場を広めるという意味で「シニアボランティアポイント」について案内を行った。

定例の会食サロン開催時には、貸館利用団体にボランティアとして加わっていただくことで、新たな担い手としてつながるような方向付けを行うとともに、地域活動への啓発にも努めた。

すでに長期的に活動されているボランティアには、事業の協働主催者として対等に向き合い、意見を取り入れるなどして将来の地域づくりの担い手として発展できるよう図った。

「障がい児者付き添いボランティア講座」を開催し、ガイドボランティア登録につなげた。

地域包括支援センター

1 総合相談・支援

総合相談

さまざまな相談を受けとめられるよう、フォーマル・インフォーマルサービスの最新の情報の把握を行い、幅広い情報を提供、ワンストップで必要なサービスにつなげるよう努めた。幅広い視野で一つのケースを検討・支援するために、地域包括支援センター内の定期的なケース会議を行った。

総合相談では、地域のサロン・サークルの情報やケアプラザ、地域包括支援センターで行っている介護予防・認知症予防事業の提供を積極的に行い、その地域資源の提供にあたっては、民生委員や町内会役員と情報共有し最新の情報を伝えられるよう努め、関係機関につなぐ役割も担った。

三職種が専門性を活かして対応できるように、定期的なケース会議のほかに随時情報共有を行い、現場調査や訪問の必要性について検討し、必要に応じて他部署や区・他機関と連携して対応を行った。今年度は民生委員、ケアマネジャーからの相談が多くあり、同行訪問の機会もあった。

介護サービスに繋がらないが、継続的な関わりが必要な方に関しては、随時三職種で情報共有を行い、電話と訪問で確認、フォローをしている。区から届く相談票は介護保険申請後のフォローのため数日後に電話で現況確認を行った。

地域包括支援ネットワークの構築

高齢社会の一層の進展に備え、高齢者支援に関わる地域の多様な活動をまとめた「釜利谷みんなの情報シート」を生活支援コーディネーターと協力して作成し、民生委員やケアマネジャーに配布を行った。

地域包括支援センターの理解が深まるよう、連合町内会役員会や民生委員・児童委員協議会では年一回説明を行い、地区推進連絡会では包括三職種で出席し、顔の見える関係づくりを行っている。地域のサロンでは講座開催や催し物に顔を出し、民生委員や地域福祉従事者、地域住民と関わりを持つように努めた。また、月に一回居宅介護事業所へ訪問し情報交換やネットワーク構築に努めた。エリア内の医療機関とは昨年度に引き続き連携シートを活用して情報交換を行い、定期的に連携会議を開催している。区の各課や区社協と必要に応じて随時情報共有しネットワークの構築に努めた。

実態把握

地域分析として、総合相談件数、介護保険申請数（予防を除く）を町丁別に集計・データ化し、地域特性の把握を行い、次年度の事業計画に役立てた。各事業では必ずアンケートを取り、参加者が望んでいる講座の聞き取りを行い、それを所長・地域活動交流・生活支援体制整備事業・包括三職種で共有し、次年度の講座テーマとして繋げた。

地域のサロンや出張講座で出向いた際、地域住民と直接触れ合う機会を作り、高齢者の個別ニーズや地域のニーズ、インフォーマルサービス等の把握に努めた。民生委員等の地域福祉従事者の方と定期的に連絡を取り合い、個別相談や地域の現状の把握を行い、潜在的なニーズの発見に努めた。

2 権利擁護

権利擁護

・成年後見制度の活用・普及啓発について

成年後見制度の利用が必要な方に対して、積極的に訪問し説明を行い、申し立て前後の継続的なフォローに努めた。区長申し立てになりそうなケースについては早い段階で区の担当CWに情報提供し繋いだ。第三者に後見人を依頼したケースについては、区、成年後見ネットワークの先生方と連携し、適切な後見人が選任できるよう紹介を行い、スムーズに申し立てが進められるよう医療機関との情報共有・連携に努めた。また、後見人の選任後も、継続的に情報共有を行い、同行訪問やカンファレンスに出席、地域ケア会議を開催することで支援を継続した。

出張講座・フェスタ等で成年後見制度の説明とパンフレットの配布を行った。普及啓発のための事業としては、コスモス成年後見サポートセンターとの協力で7月「終活セミナー・個別相談会」11月「個別相談会」2月「個別相談会」を開催し相談の掘り起しを行っている。8月ほっとタイムで「終活講座」、9月パークタウンふれあいの会で「元気なうちにやるべきこと」では講師を依頼し成年後見制度の説明を行った。11月ニューライフクラブで「認知症の理解に向けて～成年後見制度について～」では、地域包括支援センターが相談の窓口となっていることの周知を行った。11月「新任ケアマネジャー研修」では他包括と共催で権利擁護・成年後見制度の説明を新任ケアマネジャーに向けて行った。

・消費者被害防止について

消費者被害の相談があった場合は、情報収集と必要に応じて訪問し、実態確認と相談支援を行った。釜利谷郵便局とは認知症や消費者被害に関しての相談体制を整えた。

最新の消費者被害情報の収集や区内包括社会福祉士部会での情報交換を行い、広報誌や各事業で呼びかけを行った。地域活動交流と共催事業「くらしの教室」では7月坂本町内会館にて神奈川県県民局くらし県民部消費生活課に依頼し講座を開催した。「あんしんして暮らすための10分間講座」として月1～2回、地域交流事業の参加者に消費者被害の情報発信をした。今年度はその延長で「ちょっとおじゃまします」を企画し、二カ月に一回のペースで地域のサロンに出向き、10分講座で消費者被害の情報発信を行った。

高齢者虐待

相談内容として地域住民からの通報とケアマネジャーからの相談があり、それぞれ情報収集や現場確認を行い、区と連携して取り組んだ。本人家族の想いを傾聴し、必要に応じて地域福祉関係者、病院等との関係機関と連携して対応を行った。民生委員とは連絡会や各種事業で話す機会を作ることで、虐待発見・相談はスムーズに行われている。ケアマネジャーや病院のMSWとは協力体制があり、次年度も引き続き、相談しやすい環境づくりをしていきたい。

虐待を一番身近に発見しやすいケアマネジャーを対象に、12月「虐待かも！と思ったら…」の研修を開催し、弁護士の先生に依頼し高齢者虐待の基礎知識、早期発見、対応方法等の勉強会を行った。

高齢者虐待の正しい理解と、孤立しない地域づくりを目指し、広報誌での呼びかけと横浜市のリーフレット配布を行った。高齢者虐待の通報についても、地域包括支援センターが相談窓口となっていることについて出張講座や認知症サポーター養成講座等で呼びかけを行った。

介護者のつどいでは、介護者のレスパイトケアや学びの場となるよう開催し、虐待防止のため正しい理解に努めた。

認知症

出張講座やフェスタ等の中で、認知症に関するパンフレットの配布やミニ講話を行い、認知症に対する正しい理解の周知に努めた。

「認知症サポーター養成講座」は地域活動交流と共催で行っており、今年度は高齢化率がエリアで一番高い高舟台自治会館で地域住民向けに一回開催、アピタ金沢文庫の全従業員向けに、区・金沢ささえ隊と協力して三回に分けて開催、ケアプラザ全職員対象に3月開催した。エリアの小学校四校・中学校二校に、独自で作成した「認知症サポーター養成講座を開催しませんか？」のチラシをお渡しし、副校長先生に話を聞いて頂けた。来年度も開催に向けて粘り強くアプローチしていく。

今年度、認知症の妻を介護している夫からの相談が多くあり、認知症の人と家族が共に安心して過ごせる居場所の支援や家族のつどいが必要と考え、「男性介護者のティータイム」を開催した。

認知症予防の出張講座として、坂本町内会館、御仲井赤坂町内会館で「スリーA講座」、宮ヶ谷町内会館で「コグニサイズ講座」を開催した。ケアプラザでは地域住民、ボランティア、地域の支援者を対象に5回コースで「コグニサイズ講座」を開催した。宿町内会（老人会）は、月1回行われているが、前半30分「スクエアステップ」を行っており継続的に支援した。

“認知症状の自覚がなく受診につながらない”との訴えのある別居家族からの相談では、認知症初期支援チームに繋ぎ、複数の専門職と連携し、当事者と介護者自宅を訪問しアセスメントを行い、支援チーム間で受け入れ拒否に対する対応方法と今後の支援の情報共有を行い、当事者と介護者の関係性の構築とご家族の心理的サポートを行った。

3 介護予防マネジメント

介護予防ケアマネジメント力

事業対象者に対し必要なプログラム（介護予防教室、ほっとタイム、元気づくりステーション、町内会サロン等）や、区役所での講演会・教室、ケアプラザの事業につなげた。繋がらなかった方に対しては、定期的に訪問し状況によっては訪問型を紹介し区役所と連携しながら支援した。

要支援者に対しては、インフォーマルサービス等を含め、その人にあった効果的な支援計画を作成し、それ以上悪化させない現状維持や、状態の改善をめざすようなプランを作成し支援した。

委託ケースについては、更新認定や新規認定時の担当者会議に出席し、ケアプランについてのアドバイス等を行った。各居宅の新任ケアマネに対しては、予防プラン作成等についてマニュアルを作成・配布し個別に指導した。

一般高齢者に対しては、町内会出張講座、ケアプラザでの介護予防講座、ケアプラザのイベント等で介護予防の普及啓発を行った。

ロコモ予防、認知症予防のリーダー養成講座を開催し、地域のボランティア、支援者、新たな人材発掘を行った。

4 包括的・継続的ケアマネジメント支援

地域住民、関係機関等との連携推進支援

積極的に町内に出向き「ケアプラザの周知と介護保険制度」の出張講座を行った。地域交流・生活支援コーディネーターと「地図を使った釜利谷の大切な資源」の研修会を行い町内会役員・地域のボランティアやケアマネジャー、民生委員児童委員・保健活動推進員等に参加頂き地域の資源の再確認と情報共有を行い顔の見える関係づくりを行った。釜利谷地域民生委員児童委員・主任児童委員研修会で「釜利谷エリア地域密着型施設リスト」とわかりやすい施設の違いの資料を作成し地域包括ケアシステムの説明を行った。エリア内にあり地域密着型運営推進会議に参加し入所者の個別相談、地域のインフォーマルサービスや地域資源の情報提供、地域の防災時の協力体制の構築を行った。

医療・介護の連携推進支援

金沢区包括主任ケアマネジャー部会と金沢区医師会、金沢区在宅医療相談室と連携し情報交換会、薬剤師会との情報交換会、病院の医療ソーシャルワーカーとの情報交換会を開催した。釜利谷地域の医療・介護の連携がスムーズにできるように、西金沢地域ケアプラザと協働で、エリア内外の医師、医療ソーシャルワーカー等と情報交換会とし「釜利谷地域連携シート」の有効活用ができるよう釜利谷地域連携会議を開催した。

ケアマネジャー支援

毎月1回以上各事業所を訪問しケアマネジャーと顔の見える関係づくりに努めた。多問題・支援困難ケースについては必要に応じ同行訪問や区と連携しカンファレンスを開催し支援の方向性と目標設定を行い課題解決の糸口を確認していき、個別地域ケア会議に繋がった。サービス担当者会議に積極的に出席し継続的な支援を心掛けた。ケアマネジャースキルアップ研修として「生活困窮者自立支援制度」「高齢者虐待」の研修を通しケアマネ同士の情報交換、ネットワーク作りを意識して行った。包括主マネ部会とし「新任ケアマネ研修」を年三回に分け行った。

多職種協働による地域包括支援ネットワーク

個別地域ケア会議を3回開催しているが、どちらも現支援チーム以外の民生委員・地域のボランティア団体、他職種の方々にも参加頂き、「地域包括ケアシステム」を中心に検討をした。本人の思い、本人・家族の心構えを共有し、参加者の資質向上のほか地域課題の把握や分析、対策等も検討した。ケア会議終了後も、必要に応じてケース会議・カンファレンスの開催、ケアマネジャーのフォローを行い、継続的に関わっている。包括レベルケア会議を「おおた高齢者見守りネットワーク「みま～も」から学ぶこと」を開催し、その後様々な主体が参加する釜利谷の取り組みに繋ぐことが出来た。

介護予防事業

介護予防事業

2ヶ月に1回、スリーA（脳活性化リハビリゲーム）やロコモシンドローム予防体操、音楽療法、脳トレ等を取り入れたミニデイをケアプラザで開催した。昨年度までは午前中のみの開催だったが、今年度は参加者と昼ご飯を食べる時間を設け、午前午後の二本立てで行った。

介護予防支援のボランティア育成講座（講演）等を開催し、地域で活躍できる人材を育成した。

介護予防活動を行うグループの中心の方を対象として、「コグニサイズ」リーダー講座を開催し情報交換・交流の場としネットワーク構築し介護予防活動の拡充に取り組んだ。具体的には、白山道町内会の支援者が赤井町内会のサロンで「スクエアステップ」の指導

をしたり、阿王ヶ台自治会館でのサロンにこずみカフェの支援者が出向き「スリーA」を行った。「阿王ヶ台自治会館」で元気づくりステーション立ち上げを区役所と共に支援した。一般の方を対象とした「コグニサイズ 体験会」を開催し、エリア内の新たなボランティアの発掘やエリア内の介護予防の普及に取り組んだ。

生活支援体制整備事業

ニーズ・資源の把握・分析、資源情報リストの作成

釜利谷地域内のNPO団体に訪問し顔の見える関係づくりを心掛けた。毎月釜利谷地域ケアプラザの広報紙や、イベント情報を持って訪問し、ケアプラザで把握されていない高齢者への情報提供に繋げるとともに、団体との関係づくりをすることで、地域の表に出ない情報収集に役立った。

各町内会の民生委員・児童委員に協力頂き「釜利谷 みんなの情報シート」を主任ケアマネジャーと共催で作成し、主任ケアマネジャーを通し各事業に情報提供することが出来た。

圏域レベルの協議帯の設置・開催

各地域のサロン等の支援者との関係づくりに重点を置き、各地域へ毎月一事業参加を目標に進めてきた。また、地域包括支援センターが行う地域での健康講座や地域活動・交流コーディネーターが実施している事業に参加し、地域住民と顔の見える関係づくりに心がけた。

釜利谷地域の3地域から地域の仕組みづくりに関する相談を受け、情報提供や会議の出席等後方支援に努めた。中でも、これまで高齢者が集うサロンが無かった地域に、小学校の地域交流室を利用した住民主体のサロンの開設を行うことが出来た。

圏域レベルの目標・取組事項の設定

区や区社協より提供されたデータを基に、グラフ等を作成し、現状・課題の把握を行った。

各地域のサロン等に出かけ、住民の生の声（ニーズ）を聞くことが出来た。

具体的な取組事項への着手

地域より生活支援に関する相談を受け、一緒に検討に取り組んだ。生活支援に関する取組や茶話会の立ち上げに向けて、必要と思われる情報提供や、関係機関へつなぐためのコーディネートを行った。また、茶話会開催の場所として近隣の小学校の地域交流室を使える様コーディネートし活動が始まった。

地域活動・交流コーディネーター、地域包括支援センター、生活支援コーディネーターの5職種で連携したマップ研修を開催した。また、東京都大田区の入新井包括支援センターセンター長をお招きして、「おおた高齢者見守りネットワーク「みま～も」から学ぶこと」の講演会を開催し、その後様々な主体が参加する取組に繋ぐことが出来た。

西金沢地域ケアプラザとの共催で、それぞれの地域活動・交流コーディネーター・生活支援コーディネーターで協働し移動サロンの立ち上げを行った。

その他

生活支援コーディネーター配置の初年度としては、地域に出向いて住民や支援者、民生委員・児童委員との信頼関係の構築や生活支援コーディネーターの役割について理解していただく事に力を注いだ。来年度以降は、今年度構築した関係を基に、地域で必要な支援について話し合う機会を設けていきたい。

- ・地域の小学校の福祉学習や、3校の中学校の職業体験、釜利谷中学校は個別支援級の学生を受け入れ地域ケアプラザならではの体験を提供した。各大学の実習生も積極的に受け入れて、福祉の理解、地域の施設に関心を持っていただいた。

平成28年度 地域ケアプラザ収支報告書

施設名: 釜利谷地域ケアプラザ

平成28年4月1日～平成29年3月31日
(単位: 千円)

	科目	地域活動交流	地域包括支援センター			居宅介護支援	通所介護	予防通所介護 ・ 第1号通所介護	生活支援体制 整備事業
			包括的支援	介護予防事業	介護予防支援				
収入	指定管理料等収入	14935	24229	150					5789
	介護保険収入				5615	24368	107963	5818	
	その他	4167	18	0	4065	836	2282	0	1
	介護予防ケアマネジメント費				4044				
	参加費収入								1
	認定調査委託料					836			
	補助金収入						202		
	追加契約修繕費						1170		
	職員給食費						784		
	雑収入	580	18				126		
	利用料収入	3587							
	市総合事業				21				
	収入合計(A)	19102	24247	150	9680	25204	110245	5818	5790
支出	人件費	11706	19761		2455	19450	71145		4916
	事務費	1869	1286		559	1090	4644		
	事業費	485	141	147			9641		323
	管理費	3524	936				14509		
	その他	1095	537	0	6316	2000	7719	0	0
	施設使用料相当額								
	繰入金支出					2000	3000		
	利用料支出						3587		
	固定資産取得支出				1131		1132		
	返還金								
	修繕費	123	33						
	運営協議会	36							
	消費税	936							
	委託先支払				5185				
協力医謝金		504							
支出合計(B)	18679	22661	147	9330	22540	107658	0	5239	
収支 (A)-(B)	423	1586	3	350	2664	2587	5818	551	

※ 介護予防プランを他事業者へ委託する場合の取扱は、介護報酬を一旦全額収入に計上した後、他事業者へ委託料として支払う分を支出に計上してください。

※ 上記以外の事業(認知症対応型通所介護等の事業)を実施している場合は、事業ごとに列を増やして同じように記載をしてください。

※ 指定管理料提案額をベースに作成してください。

平成28年度 自主事業報告書

横浜市釜利谷地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
介護者のつどい	介護者同士が日頃の介護を通じての介護者の思いの共有や情報交換を行う場の共有とともに、ケアプラザから介護者に対して必要な情報や支援を提供できる場とする。 <ul style="list-style-type: none"> 訪問入浴サービス・施設見学会 家の中で手軽にできる料理教室 カラセラピー おむつの使い方、正しい着脱法 アロマ 	隔月・年6回
ほっとタイム	気軽に楽しく参加できる交流の場。体操・認知症予防ゲーム・音楽、口腔ケア、終活など月によってさまざまなレクリエーション、会食などの活動を通して楽しく過ごす場。住民が交流を深めることで地域の中で顔見知りの関係ができ、孤立を防止し生きがいづくりや社会参加、介護予防を目的とする。 <ul style="list-style-type: none"> ミニデイサービス 終活について 椅子に座ってのストレッチ講座 スリーA 栄養講座 音楽療法 昼食を食へながらのお話し会 昔懐かしい歌の合唱 	隔月・年5回
高舟台出張講座	地域に向きケアプラザ周知と地域の方との交流を図るとともに、介護予防の啓発と介護保険利用についての説明を出張講座として行う。 <ul style="list-style-type: none"> ケアプラザについて 包括支援センター 介護予防について 介護保険申請からサービス 生活支援コーディネーター 	春期・年1回
パーキンソン病交流会「やまゆり会」	情報交換や交流を通して疾病への知識を深めるとともに、当事者や家族が地域で支え合う場とする。 <ul style="list-style-type: none"> パーキンソン病の方の食事 交流会 音楽療法 情報交換会 	半期・年2回
Active English	障がい児者とその家族向けに外国人講師を招いて、ゲーム感覚での英会話と外国の文化を楽しんでいただくことで、興味の幅を広げるとともに日本の社会とは違った雰囲気でのコミュニケーションを体験していただく。また、外国人の活躍の場とともに、別事業「英語を楽しもう」からのボランティア育成の場ともする。 <ul style="list-style-type: none"> 英会話 外国文化の体験 	隔月・年6回
英語を楽しもう！～2020年は東京オリンピック～	2020年の東京オリンピックを目指して外国人支援を目指すとともに、利用の少ない夜間の時間で開催することでの場所の有効活用と、社会人の参加を狙うことで、ケアプラザを知っていただくとともに将来の地域の担い手としての育成にもつながりたい。 <ul style="list-style-type: none"> 英会話 外国文化の体験 	毎月・年延51回
あんしんして暮らすための10分間講座	地域活動交流が主催する教室等に、不定期に包括の職員が教室開始10分の間に、消費者被害や空き巣、交通安全等の情報提供を行うなどし、暮らしの安全に役立てていただく。 <ul style="list-style-type: none"> 消費者被害等に合わないために 	毎月・年20回
ママと赤ちゃんのためのたいそう&ストレッチ全5回	乳児を持つ母親の健康づくりと”楽しむ子育て”を知っていただく場とし、心身のリラックスとともに閉じこもりがちなこの時期を同じ乳児を持つ親同士が交流することで、悩みや楽しみを共有する場とする。 <ul style="list-style-type: none"> 母親向け体操 親子のふれあい遊び 親子でのリラクゼーション 	半年・年延べ10回
放課後活動「かまりやクラブ」	個別支援級に通う小中学生を対象に、ボランティア活動と子ども同士の交流、多世代ボランティアとの交流の場を提供することで、社会に出る準備の場とする。また、障がい児向けボランティア育成の場ともする。 <ul style="list-style-type: none"> 障がい児のボランティア活動 フリースペース 	毎月・年11回

平成28年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ブラレール広場	集団で協力しながらひとつのものを作る喜びを知っていただくとともに、保護者同士および多世代交流の場とする。男性ボランティアの活動の場としたい。 ・ブラレール遊び	隔月・年5回
一緒に歌を歌いましょう！	歌を歌うことを通しての健康維持と参加者同士の交流、職員に気軽に相談できる環境や情報収集の場の提供を行う。 ・歌の教室。 ・ストレッチ	毎月・年12回
ゴスペル教室	声を出すことによる心身の健康づくりと、障がい者・健常者・あらゆる世代の方がゴスペルを通してひとつになる場とする。また英語の歌詞により異言語による脳の活性化にも役立てる。 ・ゴスペル ・ストレッチ体操	毎月・年12回
ちょっとおじゃまします	地域包括支援センターと地域活動交流の職員が町内会のサロン等に気軽に立ち寄り、5分間程度地域住民目線で、消費者被害や空き巣、交通安全の情報提供や消費者被害、詐欺、空き巣、交通事故等に遭わないための話しや交流を図ってくる。 ・最近の詐欺情報と交通事故 ・ケアプラザ利用 ・空き巣 ・最新おれおれ詐欺 ・最近のオレオレ詐欺情報 ・介護保険申請からサービス	不定期・年7回
釜利谷親子ほっとサロン	同世代の子を持つ親同士の交流の場と、関係機関が協働しサロンを開催することで広い視野での情報提供と相談の場の提供を行う。また、地域のニースを拾う場とする。 ・親子サロン ・ミニイベント	毎月・年11回
おはなし会	子ども達が発達していく過程で心の豊かさを育むとともに、家庭内においての読み聞かせや遊び等の参考にさせていただきたい。 ・絵本の読み聞かせ ・わらべ唄 ・パネルシアター ・手遊び	隔月・年5回
もんきっきクラブ全4回	”赤ちゃん”の時期が終わり個人差が出てくる時期に、成長の違いを感じながらも自分のペースを守りながらの参加、他者の影響を受ける参加と個々に合わせた参加の場とし、次の段階へ繋げる場としたい。 ・親子体操 ・リトミック ・母親向け体操 ・読み聞かせ	春期・年延4回
はぐくみ会	子育て支援者・相談者同士の事例検討や、講師を招き勉強会を開き地域住民からのさまざまな相談に対応できるようにするとともに、ここで得た情報や知識をそれぞれが関わる親子の支援にもつなげていく。 ・子育てについての勉強会	毎月・年9回
障がい児者付き添いボランティア講座～地域で見守る障がい者支援～	障がいのある人が地域の中で暮らせるよう、付き添いボランティアについて地域の方に知っていただくとともに、支援者の育成を目的とする。 ・障がい者付き添いボランティア	春期・年1回
はりねずみのお針箱	中高年の方同士の交流や地域資源の発掘をする場として機能させるとともに、将来的にはミニティ的な機能をもたせた場としたい。またスープを提供することで、孤食がちな日常から皆で食事をする楽しさも味わっていただく。 ・手芸サロン ・おしゃべり会 ・ミニ会食 ・相談援助	隔月・年7回

平成28年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
親子体操遊び「びよんたクラブ」	1歳から6歳までの、子どもとしては幅広い年齢層対象での親子体操を開催することで、子ども間での異世代交流の場を提供するとともに、保護者間での先輩ママとの交流を通じて悩みや楽しさを共有できる場とする。 ・親子ふれあい体操 ・母親向け体操	四半期・年4回
きぐちゃんのからだ遊び・こころ遊び「麦わら帽子クラブ」全5回	子どもの自主性、自発性を尊重し、子ども自身が動くことを学び、動きをとおして、からだ・あたま・こころの調和のとれた発達を援助する。障がい児は優先的に受け入れる。 ・ムーブメント ・絵本のよみ遊び	半期・年10回
怒鳴らない子育て講演会	子供が言うことを聞いてくれない、躰をどうしたらいいか、怒鳴ってしまう、叩いてしまうなど、子育てに困っている方向けに、アメリカで開発された児童虐待防止プログラムを提供する。 ・「怒鳴らない子育て」について	春期・年1回
すみなすフェスタ	地域に向けての施設の周知と、地域と施設の交流や地域の方の活動の場の提供を行う。 ・フェスタ ・体力・健康測定 等	6月・年1回
地域支えあい連絡会	日常生活圏において「誰もが地域で安心した生活を送る」ために、地域の困りごと、援助してもらいたいことを地域の中で拾い上げ、地域の中で支えていくことを目的とする。 ・会合	四半期・年4回
簡単ストレッチ講座	高齢者の健康づくりと交流の場の提供を目的とする。 ・椅子に座ったストレッチ	春期・年1回
1歳児向け親子たいそ遊び全5回	”赤ちゃん”の時期が終わり、発育・発達の個人差が出てくる時期に、同年齢の中で比較することなくわが子の成長を見守れる場とする。 ・母親向け健康体操 ・親子ふれあい体操	半期・年延10回
かのん保育園との交流	異世代交流と福祉教育を目的とする。 ・園児とデイ利用者との交流 ・手作りカレンダーの受け取り	毎月・年10回
カモミール	釜利谷エリアを中心とした障がい児を持つ保護者の支援。 ・情報交換等	毎月・年11回
ヨガ教室	英語圏の外国人講師を招き事業を展開することで、日本語を母国語としない外国人への居場所と国際交流の場を提供するとともに、健康づくりにも役立てていただく。また今後、外国人の方にも地域資源として活動していただくきっかけとなる場とする。 ・ヨガ教室	隔週・年22回

平成28年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
車椅子の貸し出し	介護支援を目的とする。 ・車椅子の貸し出し (2週間以内)	随時・年36回
月曜日には体操を	日頃の生活の中でも続けられる動きを中心に指導いただき、介護予防、身体機能維持、腰痛・膝痛予防に役立てていただくとともに、参加者同士の交流、職員に気軽に相談ができる環境や情報収集の場の提供を行う。	毎月・年12回
区内2大学合同ボランティア養成講座	区内2大学に向けてボランティア養成講座を開催することで、ボランティア活動を通して、社会貢献、地域とのつながり等学んでいただくとともに、奉仕することが自らの成長や喜びにつながることを知っていただく。	春期～夏期・年延4回
からだ遊び・こころ遊び「どんぐりっこ倶楽部」	子ども自身が動くことを学び、動きを通して”からだ・あたま・こころ”の調和のとれた発達を援助する。また、後半の座談会では”集団遊びに入れない・なじめないこと”を中心に座談会を行う。	夏期・年1回
釜利谷 親子すくすく広場	地域の複数の関係機関の共催により開催することで、子育て中の保護者の方にさまざまな子育て支援があることを知っていただくとともに、子育てサークル入会のきっかけともし、子育て中の支援及び社会からの孤立を防止する。	9月・1回
釜利谷南小学校3年生社会科「この町大好き」	ケアプラザの機能について学習することにより、ケアプラザの理解福祉を知るきっかけとしたい。	夏期・1回
サマーフレンド	学齢期障がい児の余暇支援を行うとともに、障がい児をサポートするボランティアの育成および福祉体験学習の場としても機能させる。また、区社協、区内9ケアプラザの協働で事業を展開することで、金沢区の障がい児支援事業の更なる向上をめざす。	夏休み・1回
ラジオ体操講習会	ラジオ体操を通じて、地域の方の健康づくりと交流の場の提供を目的とする。	夏期・年1回
くらしの教室	くらしに役立つ情報を発信する。振り込め詐欺、空き巣、悪質商法の手口と対策等を発信することで、被害を未然に防ぎ、ケアプラザが身近な相談窓口であることを広めたい。	夏期・年1回
パークタウン自治会出張講座～今日から始めよう！元気なうちにやるべき事～	終活のきっかけ作りと成年後見制度の普及啓発を行う。	夏期・年1回

平成28年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
認知症サポーター養成講座 高舟台自治会	高舟台自治会住民を対象に、認知症について正しく理解し、認知症の人と家族を温かく見守り、支援する応援者を養成する。 ・認知症サポーター養成講座	夏期・年1回
認知症サポーター養成講座 アピタ	リニューアルオープンするアピタ（スーパーマーケット）全職員を対象に、認知症について正しく理解し、認知症の人と家族を温かく見守り、支援する応援者を養成する。 ・認知症サポーター養成講座	夏期・年延3回
終活セミナー&個別相談会	相続、遺言、成年後見制度を学び、老後のことを考えるきっかけ作り。 ・相続、遺言、成年後見制度 ・個別相談会	夏期・年1回
宿仲会 スクエアステップ	町内会でのロコモ予防、認知症予防の支援。 ・スクエアステップ	夏期・年1回
御仲井赤坂町内会健康講座	町内会住民に対して、介護予防の普及啓発。 ・栄養について ・口腔ケアについて	夏期・年2回
坂本町内会健康講座	町内会住民に対して、介護予防の普及啓発。 ・スリーA ・栄養について	夏期・年2回
コグニサイズ講座	ロコモ予防、認知症予防のリーダー養成。 ・コグニサイズの講習会 ・ロコモ予防 ・ストレッチ	春期～冬期年7回
横浜市釜利谷保育園との交流	異世代交流と福祉教育を目的とする。 ・園児とデイ利用者との交流 ・園児による歌の披露	秋期・2回
職業体験 釜利谷中学校 個別支援級	将来、社会に出るにあたっての準備の場としていただく。 ・「森の小道やまなみ」体験	秋期・1回
地図を使ったまちづくり～釜利谷の大切な資源～	地図を使い視覚的に釜利谷を知るとともに、地域の多様な支援者が一堂に会して情報交換し関係を深める場とする。 ・地図から釜利谷の資源を知る ・地図の活用方法について	秋期・1回

平成28年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
健康づくりのためのあ るき方講習会	高齢者の健康づくりと交流の場の提供を 目的とする。 ・歩き方講習 ・ストレッチ ・ウォーキング（地域を歩く）	秋期・1回
笑顔のコーチング 夢の日バージョン	家庭や職場においてのお互いの笑顔を引き出し関係を良くするコミュニケーションの方法を学び、毎日の生活の中での笑顔を増やし、やる気や可能性を引き出す。 「笑顔のコーチング」講座	秋期・1回
医療講演会 「手・腕の痛みやしびれ」	講演会を通じて”手・腕の痛みやしびれ”の原因や対処法を学ぶことにより、病気の早期発見や予防に役立てていただく。 ・「手・腕の痛みやしびれ」	秋期・1回
外国の文化 「ハロウィンパーティー」	主に障がい児者向けに外国人講師を招いて外国の文化を楽しんでいただくこと ・ゲーム ・ダンス で、興味の幅を広げるとともに、日本の社会とは違った雰囲気でのコミュニケーションを体験していただく。また、外国人の活躍の場としても機能させたい。	秋期・1回
移動サロン 釜利谷おいで家”よってらっしゃい”	西金沢地域ケアプラザと釜利谷地域ケアプラザの4コーディネーター（生活支援、地域活動交流）で、一人でも気軽に立ち寄れる移動式のサロンを開催することで、地域と関わりを持っていない方、新たな出会いを求めている方の居場所を提供するとともに、地域の紹介やケアプラザ事業の紹介をすることで、活動範囲を広げるきっかけとした。 ・おしゃべりサロン	隔月・年3回
親子でおさんぽ	お散歩を通して、手をつないでの親子の時間と釜利谷の自然を楽しんでいただくとともに、同世代の子を持つ親同士の交流の場としていただく。また、保育士、保健師との子育て相談の場としてもいただく。 ・親子での散歩と外遊び ・外遊びの指導 ・相談の場の提供	秋期・年1回
バランス良く食べる	健康寿命を延ばすひとつの方法として、日常の食事を見直していただく。 ・会食 ・栄養講座	秋期・年1回
森の小道やまなみ	サロンを開催することにより、食・居場所・世代を越えた交流の場の提供を行うとともに、ボランティア育成やケアプラザを身近な相談の場として知っていただく機会ともしたい。また、学生の職業体験・福祉体験・社会体験の場としても機能させたい。 ・会食 ・ミニ講座 ・フリースペース ・相談 ・職業体験の受け入れ	秋期から冬期・年2回
子育てサポートシステム説明会	地域の中で子どもを預けたい人と預かる人をつなぐことで人と人のつながりを広げ、地域全体で子育てを応援する仕組みを築く。 ・「子育てサポートシステム」説明会	秋期・年1回

平成28年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
宮ヶ谷健康講座	町内会住民に対して、介護予防の普及啓発を目的とする。 ・口腔ケア ・介護予防講座	秋期・年1回
男性介護者のためのティータイム	男性で、同じ介護の悩みを抱えている同士で経験を共有し、情報交換や交流の場とする。 ・情報交換 ・交流	秋期・年1回
行政書士による無料個別相談会	成年後見制度の普及啓発、遺言等の相談の場とする。 ・成年後見制度や遺言等の相談	秋期～冬期・年2回
親子3B体操教室	2～3歳児親子を対象に健康づくりの場を提供するとともに、あいさつや順番といったことも意識して教室に取り入れ、社会に出る第一歩としての機能も持たせる。 ・親子体操(3B体操) ・母親向け体操	秋期～冬期・年8回
手話ダンスとミニコンサートを楽しむ会	高齢者の健康づくりと交流の場の提供を目的とする。 ・手話ダンス ・バイオリンミニコンサート	冬期・年1回
地域でできること・私たちにできること 地域で暮らすタイと日本・とは？ダウン症児子育て15年で見えてきたもの	講演会を通して障がい児者理解と支援者の育成を目的とする。また、“地域でできることや自分自身にできること”を考えるきっかけとしたい。 ・講演会とグループワーク	冬期・年1回
ベビーマッサージ教室	親子のコミュニケーションとともに習慣的に体に触れることで体調の変化にも気付きやすくし、病気の早期発見にもつなげる。 ・ベビーマッサージ教室	冬期・年1回
親子音楽会	小さなお子さんと保護者を対象に、身近で本格的な音楽に触れる機会と、気兼ねなく音楽を楽しんでいただく場の提供を行う。また地域とのつながりをつくる場としたい。 ・バイオリンコンサート	冬期・年1回
職業体験 富岡中学校	将来の進路決定にあたって、広い視野で真剣に臨む心と、福祉を通しての社会を知るきっかけとしていただく。 ・デイサービスでの体験 ・「森の小道やまなみ」体験	冬期・年延2回
認知症サポーター養成講座	ケアプラザ職員と事業者を対象に、認知症について正しく理解し、認知症の人と家族を温かく見守り、支援する応援者を養成する。 ・認知症サポーター養成講座	冬期・年1回

平成28年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
民生委員児童委員協議会向け出張講座	民生委員児童委員の交替に伴い、改めてケアプラザの機能について周知を行うとともに、顔の見える関係づくりを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ケアプラザについて ・ケアプラザの各部門について ・釜利谷エリア内の施設について 	冬期・年1回
宮ヶ谷コグニサイズ講座	地域に向いて認知症予防・啓発と交流の場の提供を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・コグニサイズ講座 	冬期・年1回
高舟台ふれあい昼食会	地域に向いて、口腔ケアの啓発とケアプラザ事業の周知を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・口腔ケア ・ケアプラザ事業の周知 	冬期・年1回
宮ヶ谷おしゃべりサロン	地域に向いて、認知症の予防・啓発とケアプラザ事業の周知を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・コグニサイズ ・交流 	冬期・年1回
赤井サロン	地域に向いて、認知症の予防・啓発とケアプラザ事業の周知を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・スリーA ・交流 	冬期・年1回
福祉体験 並木中学校	福祉教育を通じて福祉を知るとともに、地域や異世代の人との関わりについて考えるきっかけとしていただきたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・デイサービスでの体験 	冬期・年延2回
地域実習 横浜市大看護科	地域看護活動の対象としての個人・家族・集団および地域・コミュニティーの特性や健康課題の理解。地域ケアプラザの事業や担当職種を理解し、地域包括ケアシステムの構築に果たす役割を考察する。 <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センター、地域活動交流、デイサービスでの体験実習 	冬期・年延4回
事業名	目的・内容等	実施時期・回数

平成28年度 自主事業収支報告書

事業名	①募集対象	自主事業予算額					
	②延参加者数	総経費	収入		支出		
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	講師謝金	材料費	その他
介護者のつどい	介護者	41924	41924	0	14136	14957	12831
	87名						
	0円						
ほっとタイム	高齢者	11000	11000	0	0	3000	8000
	102名						
	0円						
高舟台出張講座	高舟台自治会	0	0	0	0	0	0
	30名						
	0円						
パーキンソン病交流会「やまゆり会」	当事者と家族	9114	9114	0	3000	6114	0
	26名						
	0円						
Active English	障がい児者と家族	34640	24840	9800	33408	1232	0
	70名						
	350円						
英語を楽しもう！～2020年は東京オリンピック～	地域	444749	72449	372300	444353	396	0
	492名						
	700(ビジター800円)						
あんしんして暮らすための10分間講座	地域	0	0	0	0	0	0
	425名						
	0円						
ママと赤ちゃんのためのたいそう&ストレッチ全5回	0歳児親子	66822	46022	20800	66822	0	0
	149名						
	1,600円						
放課後活動「かまりやクラブ」	学齢障がい児	18431	10031	8400	0	0	18431
	106名						
	200円						
プラレール広場	地域	0	0	0	0	0	0
	129名						
	0円						
一緒に歌を歌いましょう！	地域	93540	36340	57200	93540	0	0
	155名						
	400円						
ゴスペル教室	地域	261719	19969	241750	261719	0	0
	286名						
	1000円(障がい児者150円)						
ちよっとおじゃまします	地域	0	0	0	0	0	0
	214名						
	0円						
釜利谷親子ほっとサロン	未就園児親子	0	0	0	0	0	0
	526名						
	0円						

平成28年度 自主事業収支報告書

事業名	①募集対象	自主事業予算額					
	②延参加者数	総経費	収入		支出		
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	講師謝金	材料費	その他
おはなし会	未就園児親子	19485	19485	0	19485	0	0
	82名						
	0円						
もんきっきクラブ全4回	2～3歳児親子	56958	16558	40400	53458	0	3500
	108名						
	1,300円						
はぐくみ会	子育て支援者	0	0	0	0	0	0
	42名						
	0円						
障がい児者付き添うボランティア講座～地域で見守る障がい者支援～	地域	3000	3000	0	0	0	3000
	19名						
	0円						
はりねずみのお針箱	中高年	15155	15155	0	0	12155	3000
	79名						
	0円						
親子体操遊び「ぴよんたクラブ」	1～6歳児親子	28728	15528	13200	26728	0	2000
	114名						
	300円						
きぐちゃんのからだ遊び・こころ遊び「麦わら帽子クラブ」全5回	2～3歳児親子	66822	36422	30400	66822	0	0
	205名						
	1,600円						
怒鳴らない子育て講演会	就学前の子を持つ親	0	0	0	0	0	0
	37名						
	0円						
すみなすフェスタ	地域	0	0	0	0	0	0
	800名						
	0円						
地域支えあい連絡会	地域支援者等	22673	22673	0	0	0	22673
	88名						
	0円						
簡単ストレッチ講座	高齢者	0	0	0	0	0	0
	45名						
	0円						
1歳児向け親子体操遊び全5回	1歳児親子	66822	31222	35600	66822	0	0
	215名						
	1,600円						
かのん保育園との交流	保育園児	0	0	0	0	0	0
	256名						
	0円						
カモミール	障がい児を持つ親	0	0	0	0	0	0
	93名						
	0円						

平成28年度 自主事業収支報告書

事業名	①募集対象	自主事業予算額					
	②延参加者数	総経費	収入		支出		
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	講師謝金	材料費	その他
ヨガ教室	地域	196008	15408	180600	196008	0	0
	484名						
	400円						
車椅子の貸し出し	地域	0	0	0	0	0	0
	36名						
	0円						
月曜日には体操を	中高年	60000	10500	49500	60000	0	0
	177名						
	300円						
横浜市立大学ボランティア養成講座	大学生	0	0	0	0	0	0
	134名						
	0円						
からだ遊び・ころ遊び「どんぐりっこ倶楽部」	未就園児親子	6682	5982	700	6682	0	0
	5名						
	350円						
釜利谷親子すくすく広場	未就園児親子	0	0	0	0	0	0
	181名						
	0円						
釜利谷南小学校3年生 社会科「この町大好き」	小学生	0	0	0	0	0	0
	55名						
	0円						
サマーフレンド	障がい児	17163	6163	11000	7795	9368	0
	25名						
	1,000円						
ラジオ体操講習会	地域	0	0	0	0	0	0
	81名						
	0円						
くらしの教室	地域	0	0	0	0	0	0
	24名						
	0円						
パークタウン自治会出張講座	パークタウン自治会	0	0	0	0	0	0
	41名						
	0円						
認知症サポーター養成講座 高舟台自治会	高舟台自治会	0	0	0	0	0	0
	30名						
	0円						
認知症サポーター養成講座 アピタ	アピタ職員	0	0	0	0	0	0
	230名						
	0円						
終活セミナー＆個別相談会	高齢者	0	0	0	0	0	0
	10名						
	0円						

平成28年度 自主事業収支報告書

事業名	①募集対象	自主事業予算額					
	②延参加者数	総経費	収入		支出		
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	講師謝金	材料費	その他
宿仲会出張講座	宿町内会	0	0	0	0	0	0
	24名						
	0円						
御仲井赤坂町内会健康講座	御仲井赤坂町内会	0	0	0	0	0	0
	35名						
	0円						
坂本町内会健康講座	坂本町内会	10000	10000	0	10000	0	0
	42名						
	0円						
コグニサイズ講座	高齢者	10000	10000	0	10000	0	0
	124名						
	0円						
横浜市釜利谷保育園との交流	保育園児	0	0	0	0	0	0
	42名						
	0円						
職業体験 釜利谷中学校個別支援級	中学生	0	0	0	0	0	0
	6名						
	0円						
地図を使ったまちづくり～釜利谷の大切な資源～	地域支援者	80000	80000	0	80000	0	0
	36名						
	0円						
健康づくりのためのあるき方講習会	高齢者	0	0	0	0	0	0
	52名						
	0円						
笑顔のコーチング 夢の日バージョン	地域	0	0	0	0	0	0
	8名						
	0円						
医療講習会「手・腕の痛みやしびれ」	地域	0	0	0	0	0	0
	11名						
	0円						
外国の文化「ハロウィンパーティ」	地域	9636	4886	4750	5568	4068	0
	16名						
	500円(障がい者250円)						
移動サロン 釜利谷おいで家”よってらっしゃい”	高齢者	4656	3156	1500	0	4656	0
	45名						
	100円						
親子でおさんぽ	未就園児親子	0	0	0	0	0	0
	52名						
	0円						
バランス良く食べる	地域	0	0	0	0	0	0
	36名						
	0円						

平成28年度 自主事業収支報告書

事業名	①募集対象	自主事業予算額					
	②延参加者数	総経費	収入		支出		
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	講師謝金	材料費	その他
森の小道やまなみ	地域	53382	16732	36650	0	48306	5076
	152名						
	300円(食事)50円(コーヒー) 100円(ティー&クッキー)						
子育てサポートシステム説明会	養育者等	0	0	0	0	0	0
	9名						
	0円						
宮ヶ谷健康講座	宮ヶ谷町内会	0	0	0	0	0	0
	26名						
	0円						
男性介護者のためのティータイム	男性介護者	2623	2623	0	0	2623	0
	1名						
	0円						
行政書士による無料個別相談会	地域	0	0	0	0	0	0
	8名						
	0円						
親子3B体操教室	2～3歳児親子	53457	33957	19500	53457	0	0
	127名						
	300円						
手話ダンスとミニコンサートを楽しむ会	高齢者	0	0	0	0	0	0
	57名						
	0円						
地域でできること・私たちにできること 地域で暮らすタイと日本とは？ダウン症児子育て15年で見えてきたもの	地域	0	0	0	0	0	0
	58名						
	0円						
ベビーマッサージ教室	0歳児と母親	8682	7182	1500	6682	2000	0
	9名						
	500円						
親子音楽会	未就園児親子	0	0	0	0	0	0
	82名						
	0円						
職業体験 富岡中学校	中学生	0	0	0	0	0	0
	8名						
	0円						
認知症サポーター養成講座	事業者等	0	0	0	0	0	0
	33名						
	0円						
民生委員児童委員協議会向け出張講座	民生・児童委員	0	0	0	0	0	0
	36名						
	0円						
宮ヶ谷コグニサイズ講座	宮ヶ谷町内会	0	0	0	0	0	0
	13名						
	0円						

平成28年度 自主事業収支報告書

事業名	①募集対象	自 主 事 業 予 算 額					
	②延参加者数	総経費	収入		支出		
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	講師謝金	材料費	その他
高舟台ふれあい昼食会	高舟台自治会	0	0	0	0	0	0
	50名						
	0円						
宮ヶ谷おしゃべりサロン	宮ヶ谷町内会	0	0	0	0	0	0
	18名						
	0円						
赤井サロン	赤井町内会	0	0	0	0	0	0
	15名						
	0円						
福祉体験 並木中学校	中学生	0	0	0	0	0	0
	4名						
	0円						
地域実習 横浜市大看護科	大学生	0	0	0	0	0	0
	12名						
	0円						

事業ごとに別紙に記載してください。